

# 「データサイエンス・AI人材リテラシー教育プログラム」補足資料(自己点検体制等)

## 《履修者数・履修率向上対策》

- 情報応用工学科: 選択科目ではあるが『卒業までに履修すべきプログラム』という扱いとする
- 機械電気工学科: 新しい時代に求められる人材として必要なリテラシーであることを学生に伝える

(参考)履修者数の推移(令和3年度は4月16日現在)

令和2年度: 2名      開設2年目は  
令和3年度: 141名      履修者数が約70倍

## 《サポート体制》

本教育プログラムの授業に限らず、令和3年度後期より基本的に全ての授業の撮影を実施し、LMSにアーカイブを蓄積することとし、これに向け学内設備の準備を開始している。学生がいつでも講義内容の閲覧が可能となり、学修効果を高めることができている。

また、授業で利用する教材・資料はLMSにアップし、学生がいつでも主体的に学習できるようサポートする。

さらに、本教育プログラムの授業に限らず、すべての授業において、LMSのチャット機能・掲示板機能・メール機能を用いて、学生から24時間オンラインで質問を受け付けられる体制をとっている。

学習支援室を設置し3名の教育助教が授業の質問やレポートに個別対応する体制をとっている。

AI技術を応用し、より複雑な問題を分析・予測をするために必要な知識として、選択科目を自ら学習する意欲につなげる。  
⇒応用基礎レベルの位置づけ

## データサイエンス・AI人材リテラシー教育プログラム

### 【必修】

①AI時代の情報倫理

②統計学B

### 【選択】

③微分積分1

④微分積分1演習

⑤微分積分2

⑥微分積分2演習

⑦線形代数

⑧線形代数演習

⑨統計学A

⑩プログラミング1

⑪Cプログラミング基礎及び演習

⑫Javaプログラミング基礎及び演習

⑬Cプログラミング応用及び演習

⑭Javaプログラミング応用及び演習

⑮ビッグデータによる品質管理論

⑯自然言語処理論

⑰メディアリテラシー

⑱メディアシステムデザイン論及び演習

⑲データベース論及び演習

⑳機械学習

㉑人工知能

㉒インターネット論及び演習

㉓Webプログラミング及び演習

## 《自己点検・評価体制》

数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進委員会が中心となりプログラム内授業のシラバス、授業満足度アンケート等により、半期ごとにフィードバックを行い、授業の質向上や修了者数の増加を目指し、以下内容等によりプログラムを推進する。

- シラバスのピアレビュー&推進委員会によるレビューにより授業内容を精査
- 履修状況、出席状況、レポート提出などの状況を逐次チェック
- 履修者への授業アンケートにより授業内容の理解度や興味の高さ、有用性、満足度を把握
- プログラムの履修・取得状況を分析、改善が必要な場合には改善策を検討
- 各種アンケート結果から、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを推進委員会および担当教員で協力し検討

## 《学外からの評価のフィードバック》

- 本教育プログラムを修了した学生の進路先や就職内定状況を把握
- 本教育プログラムを修了した卒業生の採用状況や企業での活躍状況、企業からの意見などを収集
- 共同研究等関連企業に対してアンケートを実施し、教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を収集
- これら意見を推進委員会がプログラム改善に活用

数理・データサイエンス・AI  
教育プログラム推進委員会

プログラム内授業のシラバス、授業満足度アンケート等により、半期ごとにフィードバックを行い、授業の質向上を図るとともに、修了者数の増加を目指しプログラムに関わる授業の必修化などについて検討する。